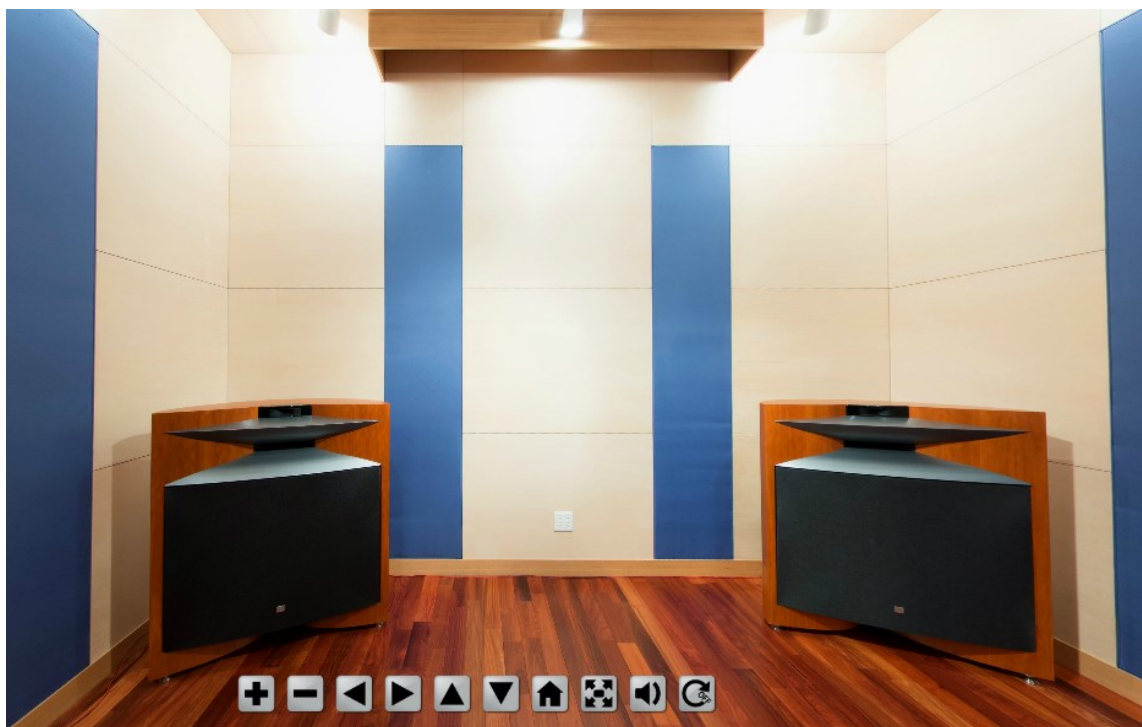


連載 第19回 『試聴室探訪記』

～谷口ともりの、魅惑のパノラマ写真の世界～

JBL DD66000 を鳴らし切る 小田木 充 邸

フォトグラファー 谷口 ともり・編集委員 森 芳久



「解像力の良さに惹かれ JBL のファンになってしまいました」

そう語るのは、この試聴室の主、小田木 充氏。40年ほど前、4320を購入、さらに4343とグレードアップされてきました。そして昨年春、石井伸一郎氏の設計による理想的な試聴室を備えた新居を建てられ、そこには JBL のフラッグシップモデル Project EVEREST DD66000 が収められています。

プログラムソースにはヤマハ製アナログプレーヤー、GT-2000X、組み合わせるカートリッジはデンオン DL-103。さらに、12cm の光ディスクならば、CD はもちろん、DVD-Audio、SA-CD、さらには Blu-ray まで何でも演奏できる文字通りのユニバーサルプレーヤー、OPPO 製 BDP-95 が用意されています。プリアンプと DAC は「金田式回路」で著名な金田明彦氏の手になるもので、パワーアンプは 50W・50W の自作アンプ。この組み合わせからしても、小田木氏のオーディオ審美眼が只モノでは無いことが伝わってきます。

「私が今までに最も印象に残っている曲はベートーベンの〈ピアノソナタ 32 番ハ短調〉とバッハの〈ヨハネ受難曲〉です。ジャズ演奏家では、故岩崎千明先生のお宅にお邪魔したとき聴かせていただいた、アルバート・アイラーが大好きになり、彼のレコードは全て集めました。また

今年改めて聴き直したジョン・コルトレーンの〈至上の愛〉も今では愛聴盤となっています。あれは宗教曲に通じるものがありますね」

この話を伺うと、氏のオーディオ機器の選択や音の好みが判るような気がしてきます。

そして圧巻は、石井伸一郎氏設計になるこの試聴室です。地下室に設えられたこの夢のオーディオ空間は、十分な天井高と万全の音響処理が施され、まさに石井マジックを実感できます（詳しくは設計者による下記コメントをご参照ください）。特にアナログディスクでの鬼太鼓座の音は臨場感と迫力満点。DD6600 が鬼太鼓に、試聴室は広大なホールに変身します。

「石井マジック恐るべし」脱帽の連続でした。

今回も谷口さんの端正なカメラワークをお楽しみください。

小田木邸のリスニングルームについて

石井オーディオ研究所 石井 伸一郎

リスニングルームの音の良さは残響特性と伝送特性によって決まる。残響の量は残響時間で表されるが、大切な残響の質については現在まだ評価の方法が見付かっている。この残響の質に着目して響きの良い部屋を実現したのが完全反射と完全吸音の二つの材料だけで構成した石井式と呼ばれている方式である。

伝送特性は部屋の縦横高さの比率が大きく関係していて【長さ：幅：高さ】の比率が【1：0.845：0.725】の場合が最も伝送特性が良いことを筆者は十数年前に発見した。特に長さに対する天井の高さが重要で、長さの0.725倍が理想であるが最低でも長さの0.66倍が欲しい。

この部屋のオーナーの小田木氏は非常に苦勞して0.66倍の天井高を実現されたが、この努力は十分に報われたのではないかと筆者は思っている。この部屋の長さは5m、幅は4.2m、高さは3.3mで容積は69m³、ほぼ15畳間の大きさである。

この部屋の大きさは最近造られているものの中では平均より少し小さいサイズであるが、今回はこれが幸いしてスピーカーの性能を最大限に引き出されているのである。これまでもJBLのDD66000を採用した例が幾つかあって、いずれの部屋でも非常に良い音で鳴っているのだが、小田木氏の部屋は大きさが少し小さいことが幸いして、美しい響きに加えて、これまでに聴いたことの無い迫力のある音を再生することが出来るのだ。

また小田木邸のDD66000の伝送特性は非常に良い特性で、これほど見事な伝送特性をグライコなどの補助手段なしで実現しているのは非常に珍しい。

この部屋は鉄筋4階建個室マンションの地下部分に造られていて隣室は予備室となっているなど環境的に非常に恵まれたものになっている。壁や天井の構造は石井式の標準的なもので床はコンクリート直張りで床材はカリンが採用されている。壁面の表面材はシナ合板で、反射波の音質を重視して無塗装にしているなど音質に拘った造りになっている。

小田木氏は同好の士の訪問を歓迎すると言って居られるので、これからリスニングルーム建設を計画している方は是非訪問されることをお勧めする。

パノラマ画像の操作説明

- パノラマ写真は、[ここ](#)か、はじめのページの**画像**をクリックしてご覧ください。
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
- マウス操作で、画面を上下・左右 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
- 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。
 - + 画面のズームイン
 - 画面のズームアウト
 - ← 画面の左移動
 - 画面の右移動
 - ↑ 画面の上方向への移動
 - ↓ 画面の下方向への移動
- 尚、カーソルを画面のオーディオ機器に当てると機種名が表示されます。